

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 2 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500091		
法人名	社会福祉法人 たちばな福祉会		
事業所名	たちばな苑 グループホーム		
所在地	広島県呉市倉橋町14948番地		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500091-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年2月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

たちばな苑グループホームは広島県の最南端（呉市倉橋町）にあり、温暖で景色の良い自然環境に恵まれたホームです。広い敷地内には特養、デイサービスセンター等が併設され行事クラブ等を一緒に行っています。又地域の行事にも参加し交流を図っています。現在はコロナ禍において中止しております。グループ独自では、天気の良い日は散歩に出かけ山羊に餌を与えたり、四季折々の草花を鑑賞したりして楽しんでいます。毎月一度は管理栄養士と一緒に入苑者様の希望にそっておやつ作りを行ったり、誕生者がおられる月は誕生会を行っています。健康管理は委託医と体調不良の人がいれば毎日連絡をし早期発見、早期治療に努めております。職員は各担当部屋の整理整頓、話しかけ等を行いご家族様には近況報告と毎月の「えくぼ」の広報誌にて確認をして頂き一人ひとりに寄り添ったケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は事業所理念と業務目標の達成に向け、各自の年間実践を年末に振り返り年頭に抱負を提示し、年に一度5項目の職員アンケートと面談を通して目指すべき職場作りに向け行動方針を共有している。法人内でも独自のサービス展開ができ、地域でも他に負けず利用者に選んでもらえる事業所作り、やりがいのある楽しい職場作り全員で取り組んでいる。更に利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。食事の準備・洗濯物畳み・習字やお茶他の多彩なクラブ活動等、役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等の活動を通して張り合いや喜びのある生活作りを支援している。運営推進会議も運営状況の共有や意見交換を図るべく、家族アンケートの依頼やケア実践のモニタリング報告等の工夫をしている。

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念としては、「和顔愛語、福祉は愛なり、人なり、心なり」を掲げています。又引継ぎ時には理念を唱和し理念に沿ったケアが出来る様心掛けています。	法人理念を事業所理念とし、それに基づいた業務目標と共に掲示し、申し送り時に唱和して実践上の立ち返るべき原点として位置付けている。それらを月間ミーティングや現場で評価検証している。又職員も各自の年間実践につき年末に振り返り、年頭に当該年度の抱負を提示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、地域の行事等なく面会制限となり、運営推進会議も出来ない状況ですが苑の広報「たちばな苑便り」は地域への配布を行い挨拶や情報交換等行い地域の一員として参加しています。	現在はコロナ禍により様々な活動が自粛となっている。ただ散歩の際に近隣の人と挨拶を交わしたり、野菜や果物の差し入れ等、相互交流もある。受診等、日常的な外出支援の他、法人広報誌を地域関係者に配ったり、運営推進会議も書面開催ながら地域関係者との繋がりも続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	買い物やドライブに出かけたりしていましたが、現在はコロナ禍において中止して職員が代行して実施しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナ禍のため、運営推進会議は行っておりません。しかし、取組みなどを報告したり、利用者様と一緒に行事を楽しんで頂きアドバイスを受け、質の向上に努めています。	最近の会議はコロナ禍のため書面会議となり、家族代表・自治会長・民生委員・市担当者に会議資料・事業所便り等を送付し、意見聴取をしている。参加できない家族と事業所運営状況の共有や意見交換を図るべく、家族アンケートの依頼やケア実践のモニタリング報告等の工夫もしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議が開催されず、毎回資料を作成し送付させていただいています。	地域包括支援センター・市担当課とは運営推進会議の事前照会で運営情報を共有し、会議の開催報告書は市担当課に郵送している。市担当者とは日頃から相談・報告をしたり、地域包括支援センターから新規利用者を紹介される事もある。法人担当窓口から行政の研修会情報を受ける事もある。	

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設特養の勉強会に参加し、身体拘束の無いケアを心掛けています。玄関の施錠は必要な時のみ時間を決めて行っています。委員会で身体拘束利用者の検討を行っています。	母体法人の身体拘束防止委員会で年1回の研修会や事業所の月例会議等を通し、職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対し職員間で注意し合える関係性もある。夜間にセンサー等を設置し拘束廃止に向けた工夫もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や在宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	併設特養の勉強会に参加しています。虐待が見過ごされる事の無いよう注意し虐待の芽は摘み取り、イライラしない介護を行い、小さな事から防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	併設特養の勉強会に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分に説明し、質問には分かりやすく丁寧に対応する事を心掛けています。入居前はご本人だけでなく家族の心配や不安も大きい為、出来るだけ心配や不安を解消し入居できるよう対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置しています。又電話でご家族のご意見をお聞きしながら、解決し納得して頂いています。グループホーム内にジュースの自動販売機を設置したり又ご希望者には新聞の購読の為配達をしてもらっています。	家族の要望は電話連絡等で把握し、職員は引き継ぎノート等で共有して迅速な対応に努めている。昨年4月には家族アンケートを実施したり、毎月の事業所便りに要望用紙を添付している。家族からの要望で職員が散髪をしたり、毎日定時に利用者との電話連絡の機会を設けた経緯がある。	

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議、月一回の苑長とのミーティング、職員での毎月のミーティングを行っています。	毎月の法人職種会議、苑長会議、事業所の職員会議、適宜の個別面談等を通し、管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。又年に一度、5項目の職員アンケート・面談にて目指すべき職場作りに向けて職員の行動方針を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務目標があり達成に向けて主任が指導したり職員同士でアドバイスしたりしてやりがいのある職場を目指しています。コロナ禍においていかにモチベーションを保てていけるかも考えて取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場の力量に応じた研修の機会を確保し法人全体で取り組んでいます。又資格修得の促進にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修を通して同業者との意見交換の機会をもち、課題の見直しをしてケアの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず施設の見学、相談時に不安や要望等を確認し把握したうえで、入居申し込みや事前訪問を行いサービス計画書を作成し入居環境を整えるようにします。本人、家族とのコミュニケーションを大切にして安心して入所できるようにします。		

自己評価	外部評価	項 目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人、家族の心配や不安、要望等を傾聴し対応しています。入所生活に入りうまく馴染めるかに重点を置き、担当ケアマネージャー等からも情報を収集しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族、看護師、ケアマネージャー、担当ケアマネージャー、サービス事業所と連携を持ち対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームであるため、入所者の残存機能を生かし掃除、食事の準備、片付け、洗濯物たたみ、クラブ、散歩等を一緒に行き本人の出来る事をしてもらい張りのあるその人にあった支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	以前は、面会時にご利用者、ご家族、職員も入り話をよく聞き、お互いの理解を深めていましたが、コロナ禍に為行えていません。必要に応じて電話対応を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	併設特養の行事、クラブ参加、地域の行事、買い物、ドライブ等に参加して顔馴染みの人達と交流を図っていましたがコロナ禍の為中止しています。又生活環境が変わらないように家庭で使っていた寝具等を使用しています。又入居者の思い出話や過去の話は傾聴するようにしています。	家族には毎月「えくぼ」通信を送付し、利用者の近況報告をしている。又手紙・電話の取り次ぎや近隣神社への散歩途上での挨拶、野菜や果物の差し入れ等、馴染みの場所・馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に関わり、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様の性格、行動を把握しより良い関係作りに努めています。共同生活の場、リビングで食事、おやつ、誕生会、レクリエーション、体操等しながら利用者様同士の交流を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	案内状を出しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを精一杯引き出すように生活歴、対話を密にしたり、個別ケアに努めています。暮らしの中から得られる情報をケアにつなげ利用者主体の暮らしを支援しています。	職員は利用者とはゆっくり話す中で深く関わりを持ち、思いを汲み取って処遇ノート・介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。書字とは縁遠い生活歴の利用者が手は不自由ながら職員の声掛け・誘導等で小さな成功体験を経験し、満足したような表情が出るまでになった例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、居宅サービス事業所と連携を取りこれまでの生活歴や経過、人物像等の情報を収集し職員間で共有し経過などに努めています。職員も担当部屋をもち毎月ご家族には状況をお知らせしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日誌に毎日の状況を記録しています。出来る事、出来た事は継続できるように話しかけて見守っています。又体調の変化の早期発見に努めています。毎日同じ時間にバイタルを測定し体調の変化に気をつけています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、職員、管理者等で話し合い本人が望む事や残存機能の維持向上を図りながら最良のケアができるように計画を立てています。又その人に合ったリハビリの話しかけを行っています。</p>	<p>関係職種の意見も反映した原案を担当者会議で検討し家族同意を得て本案としている。全職員が毎日モニタリングを行い計画作成担当者が集約して半年を基本に計画を見直している。当初は意欲低下のある利用者が牛乳パックの積み上げゲームや地元の民謡等で笑顔が出てきた立案例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入所者の日々の身体的、精神的状況や様子、状態、生活状況を日誌、引継ぎノートに個別記録に記入しミーティングを行い検討し計画を立て実践しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍で併設施設のクラブ、行事に参加する事が出来ませんが現在は生活リハビリ訓練、グループホームで①、②合同で誕生会、おやつ作り、レクレーションなどで利用者同士の交流を図り楽しんで頂いています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>以前は、運営推進会議を通じて民生委員の協力を得たり、消防署立ち合いのもとで2ヶ月に1回防火訓練を行っていましたが今はコロナ禍の為出来ていません。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>早期発見、早期治療に努め、かかりつけ医の診断を定期的に受け適切な治療を行っています。そのために朝、夕の毎日のバイタル、かかりつけ医との連絡を行っています。体調が悪い時はご家族に連絡を行っています。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが全利用者は協力医を主治医としている。併設母体法人の嘱託医から週1回の訪問診療、協力歯科医は適宜の受診となっている。専門医の受診は主に家族が協力している。併設母体法人の看護師との連携もあり、適切な医療を受けられる体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医の看護師、緊急な場合も医師、看護師が対応出来るよう支援しています。本人、家族の希望を聞き受診の支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は医療機関に情報を提供し、退院が決まればカンファレンス情報を提供してもらい退院後のケアに備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族にとって最善な終末期ケアが出来る様かかりつけ医と連携を図りながらご家族、職員と話し合い、対応について検討しています。	利用開始時「終末期ケアについての同意書」にて基本的な方針を説明し了解を得ている。重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。希望があれば看取りも行い、協力医との医療連携をもとに入院等による十分な支援体制に取り組む場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	併設施設の勉強会に参加し、応急処置、初期対応に取り組んでいます。必要に応じて職員を集めて知識、技術の習得に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の消防署の指導のもと併設施設と移動訓練を行っています。年1回の夜間訓練は地域の消防団にも参加して行いましたが、コロナ禍の為今は出来ていません。防潮堤の設置で高潮等の災害にも備えています。	法人の災害対策委員会の主導のもと、夜間想定を含め、年2回の災害訓練を実施している。ハザードマップでは土石流・急傾斜地警戒区域である。事業所も先の豪雨災害で被災した経緯があり、土砂防災マニュアルの策定や防潮堤の設置の他、地域消防団と災害時の協力体制作りにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症であっても入所者一人ひとりの人格を尊重することは基本です。入所時にはプライバシー保護についてオリエンテーションを行っています。入所者の尊厳を守る為生活歴を把握し特に言葉使いに配慮し対応しています。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。呼称は全員様付けで統一している。業務目標「話しかけをして確認」に尽力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にコミュニケーションをもちご利用者の言葉を傾聴し思いをしっかりとくみとる。分かりやすく工夫した話しかけを行い自己決定が出来る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者の性格、行動等を把握し、より良い関係作りに努めています。したい事を体調に合わせて個々のペースで出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	以前は併設施設に来られる美容院に行かれていましたが、現在は美容師の経験のある職員がカットをしています。又希望に沿った服を着て頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	年一回の嗜好調査で好みを把握し献立に生かしています。食事に準備、片付け等は出来る人に手伝って頂いています。入所時には好みをお聞きしています。	献立は併設法人委託業者の栄養士が立て、食事は法人の厨房より届けられる。年一回の嗜好調査等で好みを反映し、差し入れやプランター栽培の野菜・果物を活用することもある。月1回のおやつ作りや出前等、楽しみとなる工夫もある。利用者も洗い物等、できる役割を担っている。	

自己評価	外部評価	項 目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	体調を崩された時や食欲不振の時にはそ の人が好きな物を提供しています。又 主食を飯からお粥にしたり、副食を刻み 食にしています、定時以外の水分補給の 話しかけや、水分摂取量の少ないかたに は随時色々な飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨き、うがいを個別に行ってい ます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をとり一人ひとりの排泄状況を 把握しトイレの話しかけ誘導を行いなが ら自立に向けて支援しています。	排泄記録表で排泄パターンを把握したト イレ誘導を基本としている。退院時の紙 おむつから紙パンツ・パット対応に替 え、夜間のおむつ外しに繋げたり、自宅 で転倒し車いす対応となったが、おむつ 外し等の関わりにより車いすの足駆動や 発語も可能になる等、自立支援に取り組 んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の食事、水分摂取量に注意しながら 散歩や体操の話しかけを行い運動不足の 解消に努めています。医師の指示により 服薬も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	ご利用者の状況に応じてリフト浴、シャ ワー浴をする等しています。又季節に応 じてゆず湯、レモン湯などを楽しんで頂 いています。足浴も週二回行い入所者の 方に喜んで頂いてもらっています。	週2回の午前又は午後浴が基本だが、利 用者の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対 応している。利用者によりリフト浴やリ クライニング機能付きシャワーキャリー でシャワー浴等の対応をしている。入浴 日以外にも週二回足浴や季節の柚子湯・ レモン湯等で「たちばな温泉」気分も提 供している。	

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの個室を用意し、自宅から馴染の寝具等を持ち込んで頂き自宅に近い環境で休んで頂けるよう自由に自分のペースで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師に指示、説明を引継ぎノートに記入して確認しています。症状の変化等については医師、看護師と連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者の生活歴に応じて習字、お茶、体操、絵等のクラブに参加する機会を作る。又洗濯物たたみ、散歩、園芸、おやつ作り、動物とのふれあい等好みに応じて行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には近所の神社に散歩を行い季節の草花等に触れたりする機会を作っています。ドライブを兼ねた月二回の買い物は現在はコロナ禍の為中止しています。	近所の神社に散歩の際に近隣の人と挨拶を交わしたり、野菜や果物の差し入れ等もある。事業所のペットの山羊に餌をやったり、プランターの花や野菜の水やり・収穫を行い、屋外のベンチやテラスでお茶や歌等を楽しんだり、コロナ禍の中でも日常的な外出を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は月二回の買い物の時はご自分で支払いをして頂いていましたが現在は行っていません。お好きな物をお聞きして職員がおやつ等購入しています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ 1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>公衆電話を設置し何時でも電話が出来るようにしています。ご家族との連絡ノートを作成し連絡を密にしています。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居心地の良い落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう自然環境を取り入れ玄関には季節の花を植えたりして季節感を感じられる様工夫しています。リビングは日当たりが良く清潔で明るい空間になっています。</p>	<p>屋内外の花や季節行事の飾り付け、習字等の多彩なクラブ活動で利用者が取り組んだ壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられるよう配慮している。利用者も洗濯物畳み・後片付け等を手伝い、生活感がある。イスに座ったまま浸かれるリフト浴等、自立支援に向けた環境整備もしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂は何時でも気軽に過ごせる自由空間になっています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所時には本人の使い慣れた物、大事にされていたもの等を持参して頂き居心地良く過ごせるようになっています。</p>	<p>居室にはベッド・クローゼット・床頭台等が備え付けられている。ソファ等、使い慣れた物や利用者が昔書いた掛け軸等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、夜間排泄時の転倒防止のためセンサーマット等を設置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっており手摺を設置しトイレも随所に設置してトイレ表示も分かりやすく、話しかけて自立を促し安全に利用出来るようになっています。</p>		

V アウトカム項目(グループホーム 1) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念としては、「和顔愛語、福祉は愛なり、人なり、心なり」を掲げています。又引継ぎ時には理念を唱和し理念に沿ったケアが出来る様心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、地域の行事等なく面会制限となり、運営推進会議も出来ない状況ですが苑の広報「たちばな苑便り」は地域への配布を行い挨拶や情報交換等行い地域の一員として参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	買い物やドライブに出かけたりしていましたが、現在はコロナ禍において中止して職員が代行しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナ禍の為、運営推進会議の開催は出来ていません。しかし取り組み等を報告したり、利用者様と一緒に行事を楽しんで頂きアドバイスを受け質の向上に努めています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	今年度はコロナ禍の為、運営推進会議の開催は出来ていません。しかし取り組み等を報告したり、利用者様と一緒に行事を楽しんで頂きアドバイスを受け質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設特養の勉強会に参加し、身体拘束のないケアを心掛けています。玄関の施錠は必要な時のみ時間を決めて行っています。委員会で身体拘束利用者の検討を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	併設特養の勉強会に参加しています。虐待が見過ごされる事の無いように注意し虐待の芽は摘み取りイライラしない介護を行い小さな事から防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	併設特養の勉強会に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分に説明し、質問には分かりやすく丁寧に対応する事を心掛けています。入居前はご本人だけでなく家族の心配や不安も大きい為出来るだけ心配や不安を解消し入居できるよう対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置しています。又電話でご家族のご意見をお聞きしながら、解決し納得をして頂いています。グループホーム内にジュースの自動販売機を設置したりまたご希望者には新聞の購読の為配達をしてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議、月一回の苑長とのミーティング、職員での毎月のミーティングを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務目標があり達成のに向けて主任が指導したり職員同士でアドバイスしたりしてやりがいのある職場を目指しています。コロナ禍においていかにモチベーションを保てていけるか考えて取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場の力量に応じた研修の機会を確保し法人全体で取り組んでいます。又資格習得の促進にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修を通して同業者との意見交換の機会をもち、課題の見直しをしてケアの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず施設の見学、相談時に不安や要望などを確認し把握したうえで、入居申し込みや事前訪問を行いサービス計画書を作成し入居環境を整えるようにします。本人、家族とのコミュニケーションを大切にして安心して入所できるようにします。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人、家族の心配や不安、要望等を傾聴し対応しています。入所生活に入りうまく馴染めるかに重点を置き、担当ケアマネージャー等からも情報を収集しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族、看護師、ケアマネージャー、担当ケアマネージャー、サービス事業所と連携を持ち対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームであるため入所者の残存機能を生かし掃除、食事の準備、片付け、洗濯物たたみ、クラブ、散歩等を一緒に行い本人の出来る事をしてもらい張りのあるその人に合った支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	以前は面会時にご利用者、ご家族、職員も入り話をよく聞き、お互いの理解を深めていましたが、コロナ禍の為行えていません。必要に応じて電話対応を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	併設特養の行事、クラブ参加、地域の行事、買い物、ドライブ等に参加して顔馴染みの人たちと交流を図っていましたがコロナ禍の為中止しています。又生活環境が変わらないように過程で使っていた寝具などを使用しています。又入居者の思い出話や過去の話は傾聴するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様の性格、行動を把握しより良い関係作りに努めています。共同生活の場、リビングで食事、おやつ、誕生会、レクリエーション、体操等をしながら利用者様同士の交流を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	案内状を出しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを精一杯引き出すように生活歴、対話を密にしたり、個別ケアに努めています。暮らしの中から得られる情報をケアにつなげ利用者主体の暮らしを支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、居宅サービス事業所と連携を摂りこれまでの生活歴や経過、人物像等の情報を収集し職員間で共有し経過などに努めています。職員も担当部屋を持ち毎月ご家族には状況をお知らせいたします。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日誌に毎日の状況を記録しています。出来る事、出来た事は継続出来る様話し掛けて見守っています。又体調の変化や早期発見に努めています。毎日同じ時間にバイタルを測定し体調の変化に気を付けています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、職員、管理者等で話し合い本人が望む事や残存機能の維持向上を図りながら最良のケアが出来るに計画を立てています。又その人に合ったりハビリの話し掛けを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入所者の日々の身体的、精神的状況や様子、状態、生活状況を日誌に、引き継ぎノートに個別記録にききゅうしミーティングを行い検討し計画を立て見直し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍で併設施設のクラブ、行事に参加することが出来ませんが現在は生活リハビリ訓練、グループホームで①、②合同で誕生会、おやつ作り、レクリエーション等で利用者同士の交流を図り楽しんでいただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	以前は、運営推進会議を通じて民生委員の協力を得たり、消防署立ち合いのもとで二ヶ月に一回防火訓練を行っていましたがコロナ禍の為出来ていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	早期発見、早期治療に努め、かかりつけ医の診断を定期的に受け適切な治療を行っています。その為に朝、夕の毎日のバイタル、かかりつけ医と連絡を行っています。体調の悪い時はご家族に連絡を行っています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医の看護師、緊急な場合も医師、看護婦が対応出来るよう支援しています。本人、家族の希望を聞き受診の支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は医療機関に情報を提供し。退院が決まればカンファレンス情報を提供してもらい退院後のケアに備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族にとって最善な終末期ケアが出来る様かかりつけ医と連携を図りながらご家族、職員と話し合い、対応について検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	併設施設の勉強会に参加し、緊急処置、初期対応に取り組んでいます。必要に応じて職員を集めて知識、技術の習得に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の消防署の指導のもと併設施設と移動訓練を行っています。年一回の夜間訓練は地域の消防団にも参加して行いましたが、コロナ禍の為今は出来ていません。防潮堤の設置で高潮等の災害にも備えています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症であっても入所者一人ひとりの人格を尊重することは基本です。入所時にはプライバシー保護についてオリエンテーションを行っています。入所者の尊厳を守る為生活歴を把握し特に言葉使いに配慮し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にコミュニケーションをもちご利用者の言葉を傾聴し思いをしっかりくみとる。分かりやすく工夫した話しかけを行い自己決定が出来る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者の性格、行動等を把握し、より良い関係作りに努めています。したい事を体調に合わせて個々のペースで出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	以前は併設施設に来られる美容院に行かれていましたが、現在は美容師の経験のある職員がカットをしています。又希望に沿った服を着て頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	年一回の嗜好調査で好みを把握し献立に生かしています。食事に準備、片付け等は出来る人に手伝って頂いています。入所時には好みをお聞きしています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	体調を崩された時や食欲不振の時にはそ の人が好きな物を提供しています。又 主食を飯からお粥にしたり、副食を刻み 食にしています。定時以外の水分補給の 話しかけや、水分摂取量の少ないかたに は随時色々な飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨き、うがいを個別に行ってい ます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をとり一人ひとりの排泄状況を 把握しトイレの話しかけ誘導を行いなが ら自立に向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の食事、水分摂取量に注意しながら 散歩や体操の話しかけを行い運動不足の 解消に努めています。医師の指示により 服薬も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	ご利用者の状況に応じてリフト浴、シャ ワー浴をする等しています。又季節に応 じてゆず湯、レモン湯などを楽しんで頂 いています。足浴も週二回行い入所者の方 に喜んで頂いてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの個室を用意し、自宅から馴染みの寝具等を持ち込んで頂き自宅に近い環境で休んで頂けるよう自由に自分のペースで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示、説明を引き継ぎノートに記入して確認しています。症状の変化等については医師、看護師と連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者の生活歴に応じて習字、お茶、体操、絵等のクラブに参加する機会を作る。又洗濯物たたみ、散歩、園芸、おやつ作り、動物とのふれあい等好みに応じて行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には近所の神社に散歩を行い季節の草花等に触れたりする機会を作っています。ドライブを兼ねた月二回の買い物は現在はコロナ禍の為中止しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は月二回の買物の時はご自分で支払いをして頂いていましたが現在は行っていません。お好きな物をお聞きして職員がおやつを購入しています。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム 2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置し何時でも電話が出来るようにしています。ご家族との連絡ノートを作成し連絡を密にしています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地の良い落ち着いた雰囲気で過ごせるよう自然環境を取り入れ玄関には季節の花を植えたりして季節感を感じられる様工夫しています。リビングは日当たりが良く清潔で明るい空間になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂は何時でも気軽に過ごせるよう自遊空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には本人の使い慣れた物、大事にされていたもの等を持参して頂き居心地良く過ごせるようになっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっており手摺を設置しトイレも随所に設置してトイレ表示も分かりやすく、話しかけて自立を促し安全に利用できるようになっています。		

V アウトカム項目(グループホーム 2) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 たちばな苑グループホーム

作成日 令和5年3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の内容が反映されているが分からない。	より多くの情報発信がご家族が分かりやすいよう取組みを提供する。	運営推進会議の資料又アンケート等情報発信を細かく送付し意見をうかがう。	随時
2	10	コロナ禍の為、家族の意見や思いを聞きにくい。	ご家族様が意見などを言いやすい関係作りを行いたい。	1か月の取組みを細かく発信し、意見用紙を送付する。	随時
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。